

令和7年度重点目標達成のための行動計画（アクションプラン）

高岡市立成美小学校

具体的な達成目標

◆重点目標：地域や環境、人とのつながりを大切にし、進んで活動する子供の育成

かしこく 主体的・協働的に学ぶ態度 と話す・聞く・表現する力の育成	つよく 健康や安全への関心、 何事にも粘り強く取り組む意欲の育成	美しく 互いを認め合い、思いやりの心 をもって、協力しようとする心の育成
○よく話を聞き、よく考えている。 (85%) ○伝え合うことを通して、考えを広げたり 深めたりしている。(85%)	○早寝早起きをしたり、体力の向上に粘り 強く取り組んだりしている。(80%) ○安全に気を付けて行動している。 (90%)	○進んで挨拶をしたり、あったか言葉をつか ったりしている。(85%) ○進んで美化活動(花壇の世話、清掃活 動)に努めている。(85%)

前年度

行動Ⅰ

昨年度は、子供の主体的な追究を促すために問題解決的な学習展開を工夫し、学び合う場を設定したことにより、主体的・協働的に学習に取り組み、自己調整しながら学びを深めていく子供の姿がみられた。さらに、「振り返り」に重点を置いたことにより、子供は学びを再構築し、次時への学ぶ意欲や課題意識を高めることができた。しかし、伝え合いを通して、考えを広めたり、深めたりすることや、既習の知識・技能を関連付け、思考力を働かせて活動に取り組むことは、まだ十分とはいえない。

本年度は、昨年度に引き続き、「問題（課題）意識を高める」「自己調整しながら学習を進めることができるようにする」を基に授業改善を推進し、特に思考力・表現力の育成に重点を置く。その際、一人一人に基礎的・基本的な知識・技能の定着を図るとともに、子供が自主的・自発的に学びを進め、自己の考えを広げ、深めていく力を育むことができるように手立てを工夫していく。

また、生活リズムを整えたり、進んで運動したりしようとする意欲の育成を図る。さらに、挨拶や温かい言葉遣いの励行、美化活動を通して、互いを認め合い協力する美しい心の育成にも取り組んでいきたい。

中間評価

行動Ⅱ

年度末評価

次年度

①関わりやつながりを通した学び合う場の工夫
②基礎的・基本的な知識・技能の定着
③学習専用端末やICT機器を活用した授業づくり
④生徒指導の機能を生かした授業や特別支援教育の視点

①目当てカードを活用した継続的な体力づくり
②強化週間の設定による睡眠時間の確保等、健康な生活を実践しようとする態度の育成
③安全に気を付け危険から身を守る態度の育成

①地域と連携した学校花壇整備活動・継続した栽培活動
②E S D・S D G s・特別支援教育の推進
③児童会主体の挨拶運動
④温かい言葉遣いの励行

中間評価・・・児童の自己評価、保護者による評価、教職員による評価を分析する。

- ・日常的な評価と支援へのフィードバック。
- ・評価項目の見直し。
- ・評価結果の集計・分析を全教職員に公開。

評価結果を分析し、目標値の変更や、具体的な改善策を検討する。

・行動Ⅰを継続しながら、中間評価の結果に応じて、各分掌や学級での目標や指導、支援の在り方を見直す。

年度末評価

- ・学校評価、児童の自己評価、保護者による評価の実施
- ・評価結果の公開（学校評議委員会・学校だより・ホームページ等）

- ・各評価を基に達成状況を分析する。
- ・次年度に向けてのアクションプランの作成